

株式会社HOIST

<https://hoist-jp.com/>

創薬支援技術およびがん治療薬の研究開発



会社の特徴、事業概要

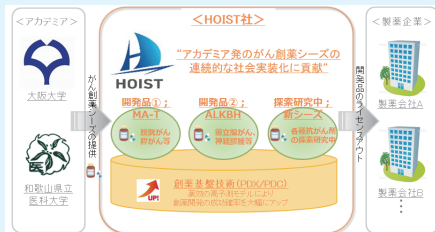
HOISTの創薬支援技術は、今後の新規抗がん剤の評価に必須となる、患者腫瘍組織移植マウスモデル(PDX)および患者腫瘍組織から直接樹立された初代培養細胞(PDC)に関する製造/特徴情報の付与技術である。PDX/PDCは、従来の長期継代された細胞株を用いた評価と比較して、より臨床に近い評価ができることが最大の特徴。同社は本技術を活用した創薬支援事業を展開することに加えて、自社開発のがん治療創薬にも適用することで、臨床試験の成功確率アップという事業シナジーを見込んでいる。

がん治療薬の開発では、創業初期から複数のパイプラインを有している。先行して開発を進めている膀胱がん治療薬は、既存薬と比較して有効性または安全性で上回るデータを取得しており、本年中に治験開始を計画している。他のパイプラインとしては、新規ターゲットであるエピトランスクリプトミクス創薬の研究開発を推進し、革新的ながん治療薬の創出を目指す。

大阪大学との関係

HOISTは、大阪大学薬学研究所の辻川和丈教授の創薬支援技術およびがん治療薬に関する研究成果を実用化するため、2019年5月に設立された大阪大学発のバイオベンチャー。

上記の創薬支援技術は、今後の新規抗がん剤の評価に必須となる、患者腫瘍組織移植マウスモデル(PDX)および患者腫瘍組織から直接樹立された初代培養細胞(PDC)に関する製造/特徴情報の付与技術になる。



本社所在地 大阪府吹田市山田丘2番8号 テクノアライアンス棟

代表取締役 柿沼 千早

設立 2019年5月